

令和3年度一関市産業振興会議 会議録

- 1 会議名 令和3年度一関市産業振興会議
- 2 開催日時 令和4年2月1日（火）午後3時30分から午後5時まで
- 3 開催場所 一関市役所 三階特別会議室
- 4 出席者
 - (1) 会長 佐藤善仁市長
 - (2) 委員 佐藤鉦一委員、阿部政夫委員、小岩邦弘委員、佐々木賢治委員
 - (3) 関係団体 岩本宰一氏、鈴木欽勝氏、船山賢治氏、菅原清忠一氏
 - (4) 事務局 菅原稔市長公室次長兼政策企画課長、八重樫裕之商工労働部長、小崎龍一農林部長、小野寺正寿商工労働部次長兼工業労政課長、千葉文信工業労政課長補佐兼工業係長

5 議題 一関市の産業振興について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 0人

8 市長挨拶

今回は、2年ぶりの開催であるが、メンバーも2人が交代した。本日は、一関市の産業振興について、協議することになるが、人口減少の中で、産業振興をどうしていくかが中心的な議題になるかと考えている。その一つの方法論として、私が女性活躍、若者活躍というようなことを申し上げていることから、その辺りの考え方を紹介させていただきたい。そして、産業振興という切り口の中で具体的な課題であるNEC跡地の取得及び利活用方針について、市議会と同じ資料で同じ説明をした上で、皆様方から率直な意見を伺いたい。

9 協議内容

(1) 座長の選任について

座長の選任について、会長である市長が互選により選任された。

(2) 人口減少の現状、女性活躍会議、若者活躍会議、農業未来デザイン会議資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 女性、若者が活躍する社会にしていくことについては同感である。

例えば、一関工業高等専門学校で起業したいという学生がいるようなので、支援できる体制を作っていければよいと考える。

会長 若者活躍会議の中でも出たが、スタートアップから軌道に乗るま

での手助けをする仕掛けが欲しいとの意見があったことから検討している。

委員 一関市の新規就農支援の取組は、岩手県内でも進んでいると思うが、さらにスムーズに就農できるような支援策を作っていければよいのではないかと思う。最終的には農業で自立することが重要であり、収入を確保している人などから収入確保の方法について学べるような支援策を考えていきたい。

会長 農家でも後継者がいないという問題が発生しており、農業を継続するためには、今後は、他の人にやってもらわなくてはならない状況となっており、国ほどの支援ではないが、市としても新規就農者のための支援を準備している。

委員 全産業で後継者問題はある。日本中、人口が減る中で、いかに人を呼び込むか、とどめるかが重要であると考え。自分の息子や、その友人達からも一関は嫌いではないが、働く場所がないという話をされる。

会長 自分が勉強したものを生かせる仕事がないこともあり、これからは、仕事の種類や働き方の種類を増やしていくことが大切だと考えている。また、今後は、ブロードバンドを活用することにより起業も容易となる。

委員 女性、若者が活躍する社会にしていくことについては同感である。継続は私の年代でもできるかもしれないが、変える力はない。新しい企画があると私は反対することが多いが、若者は実行した上で、結果を出している。

また、本日は、団体の代表としてここに参加しているが、一個人として意見を話している。市長が作った3つの会議のメンバーも同様だと思うが、いかに団体や企業などに会議での内容を伝えていくかが重要ではないか考える。

あと、農業未来デザイン会議について、個人的には林業も入れて欲しかった。一関は観光や商工業のイメージが強いと感じるが、実際には農業と林業が多く面積を有しており、地域の特性を活用できていないのかと感じているところである。

委員 人口減少は米の減反政策後に顕著になったと思う。以前は、農業で生活できたが、周囲の人が仕事に出るようになると、農業をして

いたのでは取り残され、家にずっといると不安に感じるという人が増えたのではないか。中山間地に居住しながら頑張っている人達にも、いろいろな支援の方法を考えてもらえればと思う。

委員 結婚対策についても、女性活躍会議や若者活躍会議、農業未来デザイン会議の流れの中で話が出てくるようになればよいと思う。

会長 この三つの会議は去年の10月から始まり、当初予算を意識してだいぶ足早でやってきたところだが、次の会議からは原点に戻り、若者活躍、女性活躍とは何かという話をしていきたいと考えている。

(3) NECプラットフォームズ一関事業所跡地取得及び利活用方針

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 市として、市民から幅広く意見を聞くということは分かるが、様々な用途に活用するのではなく、一関市として将来を見据えて、最後は1つか2つ程度の用途を検討して活用すべきと考える。

会長 補足すると、図式としては、管理運営法人が、世界中に、一関市にこのようにいい土地があるが、ここでビジネスを行う人はいないかと呼びかけ、申し出があったものについて、意見を紹介するという事で、あくまでも決定するのは管理法人になる。例えば、福祉団体から福祉施設を作ってほしいとの要望を聞くわけではない。

委員 今、NEC跡地を譲ってもらい活用することで、一関が変わろうとしているので、このチャンスを有効に生かして欲しい。

会長 この場所は、基本的に貸付けを前提としているが、場合によっては分譲の可能性もあるのではないかなと思う。いろいろなアイデアやプランをできるだけ集めて、最後に決定したい。

委員 大きなプロジェクトであり、将来的には雇用創出の場というのであれば、ある程度関連した形の中でまとめていければいいのではないかなと思う。駅に隣接しているという強みを生かして、全体的な活用方針を決めてもらえればと思う。

委員 個人的に不動産管理もしているが、私のところにも大手企業数社から今後の活用についての問い合わせがきており、注目度が高いと感じる。

委員 一関市のシンボリックなものをやって欲しいと思う。

(4) その他

委員 新型コロナウイルス感染症対策として、市からいろいろな支援をい

ただき感謝するとともに、今後とも支援をお願いする。1つお願いがあるが、「いちのせき宿泊応援割」は宿泊業者にとっては非常にいい事業で、多くの市民にも利用いただいている。しかし、市民が利用した際、市内の日帰り観光施設は利用されず、日帰り観光施設への恩恵が少ない。そこで宿泊プランに日帰り観光施設との周遊プランを加えてもらうような支援をお願いしたい。

会 長 具体的な支援策について、担当課と協議して欲しい。

会 長 先日、「田舎暮らし住みたい田舎ベストランキング」の結果が発表され、調査に回答があった全国751市町村の内、人口5万から20万人の173自治体において、一関市は、「若者世代単身者が住みたいまち」では全国14位、東北3位、岩手県1位、「子育て世代が住みたいまち」では全国で18位、東北で4位、岩手県で1位、「シニア世代が住みたいまち」は、全国で24位、東北で4位、岩手県で1位との結果であり、この若者単身者、子育て世代、シニアの3部門全部で岩手県で1位とのことであった。

調査方法は、ランキングを企画する出版社が全国の自治体に二百何十項目について質問し、自治体からの回答によりランキングするものである。質問の内容は、下水道は「ある」「ない」、給食費の補助は「ある」「ない」、このような事業は「ある」「ない」というような客観的な調査によるものである。

委 員 市民は気づいてなく、実感していない。気づかないのが問題だと思う。

委 員 これらの情報も生かしてほしい。

委 員 まちづくりもだが、住んでいるところの良さを分からないことが多い。気づいてもらうような施策があればよいと思う。

10 担当課 商工労働部工業労政課